

第4学年西組 道徳科学習指導案

「相手の気持ちに寄り添って【B親切, 思いやり】 ～『温かい言葉』～」

学習指導者 好井 佑馬



1 「さ・ぬ・き力」(非認知能力)及び内容項目に関する子供(34名)の実態

【詳細はこちら】

<p>さ力</p> <p>社交性</p> <p>共感性 協調性</p> <p>社交性の自覚度が高く、授業においても友達と進んで関わろうとする姿が見られる。</p> <p>協調性においても、「友達と一緒に活動している」と答えた子供が多く、協力して取り組む姿が見られる。</p> <p>共感性については、「友達が困っていたら声をかける」「相手の気持ちを考えて行動している」の自覚度は高く、他者のために行動しようとする子供は多い。</p>	<p>ぬ力</p> <p>目標への情熱</p> <p>粘り強さ 忍耐力</p> <p>目標に向けて、努力することを続けている子供は多く、目標への情熱の自覚度は高い。</p> <p>粘り強さの自覚度も高く、多様な考えから解決しようとする姿が見られる。</p> <p>一方で、忍耐力の自覚度が低い。特に、「まじめにこつこつ取り組んでいる」の自覚度が低い。授業の中では、早急に答えを求めようとする様子が見られ、じっくりと考えることを難しく感じている姿が見られる。</p>	<p>き力</p> <p>自分を信じる力</p> <p>レジリエンス 自制心</p> <p>さ力、ぬ力に比べて、全体的に自覚度が低い。</p> <p>自分には得意なことがあると考えられている一方で、苦手なことに対しては否定的に捉える気持ちが強い子供が多い。また、自分を好きだと感じられない子供が13名いる。</p> <p>自分のすべきことに向けて気持ちを制御しようとしている一方で、何とかなるだろうと考えずに、気持ちを切り替えられない姿が見られる。</p>
<p align="center">「さ・ぬ・き力」の基盤となる【B親切, 思いやり】に関する実態</p> <p>事前アンケートによると、多くの子供が親切にすることができていると感じており、足にギブスをはめた男の子が階段を上っているのを見かけたとき、どうしますかという問いに対しては、階段を上のを助ける、手伝う(28名)、声をかける(2名)、相手にしてほしいことを聞く(3名)放っておいてしまう(1名)と答えている。日常生活の様子からも、進んで親切にすることを善と考え、行動しようとする子供は多いが、真に相手の気持ちを考えた親切ということには、考えが及んでいない様子が見られる。</p>		

2 個別支援が必要な子供の実態

A児…進んで発言する様子が見られるが、自分を見つめることに苦手意識があり、自分が思ったことや感じたことを表現できないと、学習に取り組む意欲を失ってしまうことがある。

3 教材『温かい言葉』（学研：『みんなの道徳 4年』）のあらすじ

主人公の「ぼく」は、デパートでギブスをはめた男の子が階段をゆっくりと上がっているのを見つけた。しかし、「ぼく」は、恥ずかしさから男の子に声をかけられずにいた。多くの人が男の子に哀れみの視線を送るだけで通り過ぎていく中、若いお兄さんが男の子に声をかけた。「ぼく」は、その行動を素晴らしいと思うとともに、動き出せなかったことを後悔した。しかし、男の子は「ぼく」の思いとは裏腹に、そのお兄さんに対して、怒ったように手助けを断った。「ぼく」はその様子に腹を立てるが、その後、お兄さんが男の子に謝り、励ます様子や男の子がお礼を言う様子を見て感動した。

4 目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

子供たちは、よりよい人間関係を築く上で、相手に対する思いやりの心をもって親切にすることが大切であると理解している。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。子供たちは、進んで親切にしようと意識しているが、その行動が本当に相手のためになっているかどうかということには考えが及んでいないことがある。そのため、教材文のお兄さんと男の子のやりとりと、自分たちが考えていた思いやりとのずれから「お兄さんはどんな気持ちで男の子に謝ったのだろう」などと、「ぼく」の立場に立って問いを見いだすだろう。そして、お兄さんや男の子の気持ちを考えたり、二人のやりとりの素敵などころを考えたりし、「自分から声をかけているところがいいなと思うよ」「そこもいいと思うけど、ただ声をかけるのじゃなくて、相手がしてほしいことは何かを考えているところも素敵だよね。」「なるほど。だから、男の子もお礼を言ったのだろうね。自分のことを分かってもらえて嬉しかったのだと思うよ」「お互いに相手の気持ちを考えられているのって素敵だね」などと、お兄さんが男の子の気持ちに寄り添うことで、互いに相手を思いやることができ、よりよい関係を形成できることを多面的・多角的に理解していく。そして、「僕はいつも困っている人を手伝おうとしていたけど、これからは相手がしてほしいことを考えていきたいな。その方が相手に喜んでもらえるよ」などと道徳的価値の自覚を深めていくだろう。

5 主張点

（1）自分自身の問題として受け止められるようにするための働きかけ【なりきりタイム】

代表の子供がお兄さん役、教師が男の子役、その他の子供が「ぼく」役として、男の子が親切を断り、お兄さんが謝った場面の役割演技を全体で行い、「ぼく」と同じように、親切な行為を断られる様子を見る体験をする場を設定する。そうすることで、よかれと思ってした行動が断られることの不快感に気付けるようにする。その感情と、それでも男の子に謝ったお兄さんの感情のずれから、「お兄さんはどんな気持ちで男の子に謝ったのだろう」と目当てを設定し、自分自身の問題として考える意欲をもてるようにする。

（2）多様な考えを理解できるようにするための働きかけ【素敵ポイント】

お兄さんと男の子のやりとりの際の気持ちを考えた後、二人のやりとりを見ていた「ぼく」の視点を自分に置き換えて、素敵だと思ったところはどこかを問う。子供たちの考えを「男の子に声をかけたところ」「お互いに温かい言葉をかけているところ」などと整理し、その中から最も素敵だと思ったところを選ばせ、その理由を話す場を設定する。そうすることで、それぞれの考えのよさを共有しながら、お兄さんと男の子が互いに相手を思いやる気持ちのよさに気付けるようにする。

（3）自分のよさを実感し、これからの生き方につなげる働きかけ【ハートカード】

学習を通して、「これからの自分」とその理由について、学習支援アプリのハートカードに書く場を設定する。そして、それらを対話する場を設け、友達の考えのいいなと思ったところを伝え合うようにすることで、友達の考えについての理解を深めるとともに、自分のよさに気付けるようにする。その後、書いたことに取り組む自信度を4段階で色分けして示させることで、人間理解を深められるようにする。授業後には、ハートカードを、板書や教師、友達のコメントとともに学習支援アプリ上に集約し、定期的にハートカードを読み返す場を設定することで、長い期間で自分を見つめることができるようにする。

6 本時の学習

ね ら い	お兄さんと男の子の言動や気持ちについて話し合うことを通して、相手の気持ちに寄り添うことの大切さについて自覚を深め、身の回りの人に対して、進んで相手の気持ちを考えて優しく接しようとする態度を育てる。
-------------	--

	学習活動	主な子供の意識
導 入	1 役割演技をし、目当てを設定する。 【なりきりタイム】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お兄さんは、男の子を手伝おうとしたのに、男の子が怒ったから驚いた。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">私は、せっかく助けてあげようとしたのに怒られたら、謝りたくないけど、お兄さんはどうして謝ったんだろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お兄さんはどんな気持ちで男の子に謝ったのだろう</div>
展 開	2 役割演技を通して、お兄さんが男の子に謝った理由を話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お兄さん役、男の子役になって気持ちを考えてみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お兄さん役をやってみると、男の子の気持ちを考えられていなくて悪かったなという気持ちになったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">演技を見ていて、お兄さんは、男の子がどうしたかったかという相手の気持ちを大事にしていると思ったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">男の子は自分の力で上りたいという気持ちだったのじゃないかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お兄さんは男の子の気持ちになって考えたんだね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">男の子の気持ちになって考えるというのは、相手にしつこく関わろうとすることじゃなくて、相手が本当にしてほしいことを考えることだと思うよ。</div>
展 開	3 自分が素敵だと思ったところはどこかを話し合う。 【素敵ポイント】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">素敵だなと思うところがいろいろあったな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お兄さんが男の子に自分から声をかけたところだよ。他の人は手伝おうとしないのに、自分から助けられるのはすごいと思うよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">確かに、自分から声をかけてあげられるのもすごいと思うけど、男の子がしてほしいことまで考えて謝っていることがすごいと思うよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">そうだね。相手が喜ぶことをしてあげているのだね。そうやって、自分のことを考えてくれたから男の子は嬉しくなってお礼を言えたんだろうね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お互いに謝ったり、お礼を言ったりして、二人とも相手の気持ちを考えているところが素敵だね。二人がお互いの気持ちを分かり合えたところが素敵だと思うよ。</div>
終 末	4 本時の学習を基に、これからの自分の生き方について考え、話し合う。 【ハートカード】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">アンケートを見ると、とにかく助けようと思っている人が多かったんだな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">これからは、相手がどうしてほしいかを考えて行動したいと思ったよ。相手が考えていることを想像するのは難しいけど、相手が喜ぶことをしてあげたいと思ったからだよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">これまで、困っている人がいたら助けてあげようと思っていたけど、「してあげよう」ではなく、「その人のためになるように」と考えたい。役に立たないと意味がないからだよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">相手のことをよく考えているね。僕もその人のためになっているかということについて意識してみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">相手がしてほしいことを考えるのが大切だと思っているんだね。相手に聞いてみるというのもいいだろうね。</div>

評 価	お兄さんの行動に問いを見だし、お兄さんや男の子の気持ちや素敵などところを話し合うことを通して、自分の思いだけでなく、相手の気持ちを尊重することの大切さに気づき、進んで親切にすることについて、自分との関わりで捉えている。 【方法：発言・様相・記述】
--------	--

7 働きかけの詳細

～導入（見通し）～ **学習活動1** 【なりきりタイム】

教材文の範読後、代表の子供がお兄さん役、教師が男の子役、その他の子供が「ぼく」役として、男の子が親切を断り、お兄さんが謝った場面の役割演技を全体で行う場を設定する。「ぼく」と同じように、実際に親切な行為を断られる様子を見る体験をし、断られたときの感情を共有することによって、よかれと思ってしたことが断られることの不快な感情に気付けるようにする。その際、「ぼく」の立場で感じた不快な感情を板書し、男の子に謝ったお兄さんの感情と比較することで、その行動の不思議さに気付けるようにする。そして、その不思議さを基に、「お兄さんはどんな気持ちで男の子に謝ったのだろう」と問いを見だし、考える意欲をもてるようにする。また、役割演技の際に、A児にどのように感じたかを問い、素直な感想に共感することによって、自信をもたせ、その後の学習意欲を高められるようにする。

なりきりタイムの約束

①人物になりきる

動き 表情
せりふ 気持ち

②よく見て、考え

感想・質問
×ひやかす、もんく

【なりきりタイムの約束】

～展開（行動）～ **学習活動2** **学習活動3** 【素敵ポイント】

お兄さんが男の子に謝った気持ちについて、自分の考えをもてるように、近くの友達と話し合う場を設定する。その後、代表の子供がお兄さん役と男の子役での役割演技を全体で行う。お兄さんが、男の子の気持ちを考えられていなかったことを謝ったのだということを捉えられるようにするために、役割演技を行った子供や見ていた子供に、感じたことなどを問い、お兄さんの謝った気持ちや男の子が親切を断った気持ちについて話し合う場を設定する。その過程において、お兄さんが男の子の気持ちを尊重していない場合の役割演技を行ってみることで、自分勝手な思いによる優しさではなく、相手の気持ちを尊重する優しさの大切さに気付けるようにする。

その後、二人の様子を見て、素敵だと思ったところはどこかを問う。子供たちの考えを「男の子に声をかけたところ」「助けを断られても謝り、応援したところ」「男の子がお礼を言ったところ」などと整理し、ハート型のカード（素敵ポイント）を板書に貼る。そして、その中から最も素敵だと思うところを選ばせ、その理由を話す場を設定する。素敵ポイントを貼ることで、それぞれの考えの違いが明確になり、対話の意欲を高められるようにする。また、自分から手伝おうと行動することとお兄さんと男の子が互いに相手を思いやっていることについて比べる問いかけを行うことで、互いを思いやる気持ちのよさに気付けるようにし、相手の気持ちを尊重することの価値を理解できるようにする。考えを選択できるようにすることは、自分の考えをもつことに抵抗感のあるA児への支援にもなるだろう。考えをもって交流している姿を称賛し、自信を高められるようにする。



【ハート型のカードを位置付けた板書】

～終末（振り返り）～ **学習活動4** 【ハートカード】

教材文と同じような男の子を見つけた場合にどうするかという事前アンケートの結果を示し、これまでの自分の考えを振り返ることができるようにする。その後、学習を通して考えた「これからの自分」とその理由について、学習支援アプリのハートカードに書く場を設定する。そして、それぞれの考えを一覧で見られるようにすることで、友達の考えと見比べながら自分の考えを見直せるようにする。また、どうしてそう考えたのかを話し合う場を設け、それぞれの考えについての理解を深められるようにする。その際、友達のいいなと思ったところを伝え合えるようにすることで、自分のよさに気付けるようにする。書いたことを実践する自信度を4段階で色分け（桃：4，黄：3，緑：2，青：1）して示させることで、「大切だと分かっているけど実行することは難しい」などと自分を見つめながら考えられるようにする。

これからは、本当に相手のことを考えて助けられているかということを考えていきたい。そのわけは、自分の思いで優しくしても相手はうれしくないときがあると思ったから。

【ハートカード】